

NEWS RELEASE

平成26年12月10日
一般社団法人 信託協会

信託財産総額は史上最高額の870.2兆円に

(信託の受託概況 (平成26年9月末現在))

一般社団法人 信託協会 (会長 中野 武夫) では、今般、平成26年9月末の信託の受託概況 (信託の機能別分類に基づく計数) をとりまとめました。

1. 要旨

信託財産総額は、870.2兆円 (前年同月末比50.9兆円増、6.2%増) となり、史上最高額 (これまでの最高額は、平成26年3月末の852.0兆円) を更新しました。

- ・資産運用型信託は、124.8兆円 (前年同月末比1.7兆円減、1.3%減) となっています。
- ・資産管理型信託は、663.0兆円 (前年同月末比51.3兆円増、8.4%増) となっています。
- ・資産流動化型信託は、58.4兆円 (前年同月末比1.3兆円増、2.3%増) となっています。

2. 概要

(1) 資産運用型信託

資産運用型信託の信託財産額は、124.8兆円 (前年同月末比1.7兆円減、1.3%減) となっています。

主な内訳を前年同月末比で見ると、金銭信託が29.4兆円と1.6兆円増、年金信託が41.4兆円と3.0兆円増、有価証券の信託が48.8兆円と6.5兆円減となっています。

(2) 資産管理型信託

資産管理型信託の信託財産額は、663.0兆円（前年同月末比51.3兆円増、8.4%増）となっています。

主な内訳を前年同月末比で見ると、金銭信託が89.0兆円と1.6兆円減、年金信託が44.4兆円と1.8兆円増、投資信託が131.9兆円と11.2兆円増、再信託が304.1兆円と28.7兆円増となっています。

(3) 資産流動化型信託

資産流動化型信託は、58.4兆円（前年同月末比1.3兆円増、2.3%増）となっています。

主な内訳を前年同月末比で見ると、金銭債権の信託（貸付債権、売掛債権の信託など）が29.9兆円と1.0兆円減、不動産の信託が27.6兆円と2.1兆円増となっています。

なお、資産流動化型信託は、金融機関、企業の財務の改善や資金調達の方法として利用されており、金銭債権の信託は、金融機関が保有する貸付債権や企業が保有する売掛債権を流動化するために、不動産の信託は、不動産投資市場において、信託機能を活用して不動産の流動化を行うために利用されています。

以 上

本件に関する照会先：

(一社) 信 託 協 会

総務部（広報担当） 兼田

業務部 藤田

電話 03-3241-7130

信託の受託概況（信託の機能別分類に基づく計数）

（平成26年9月末現在）

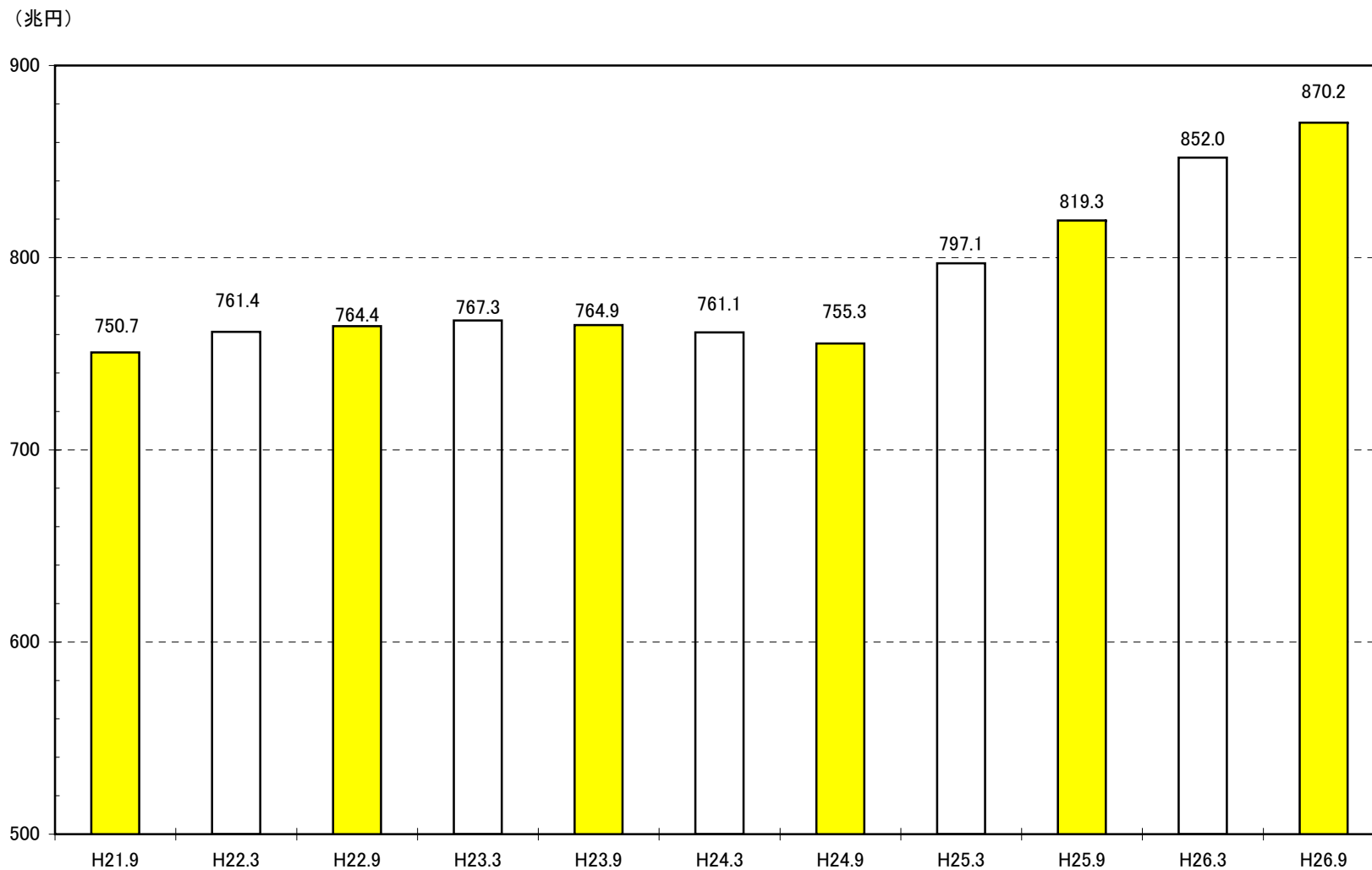
一般社団法人 信託協会
（単位：兆円、％）

機能別分類	平成26年9月末現在				平成25年 9月末現在	平成26年 3月末現在
	残高	前年同月末 比増減額	同増減率	構成比	残高	残高
資産運用型信託（注2）	124.8	△ 1.7	△ 1.3 %	14.3 %	126.5	119.3
金銭信託	29.4	1.6	5.8 %	3.4 %	27.8	28.9
年金信託	41.4	3.0	7.8 %	4.8 %	38.4	40.0
金銭信託以外の 金銭の信託	1.9	0.2	11.8 %	0.2 %	1.7	1.7
有価証券の信託	48.8	△ 6.5	△ 11.8 %	5.6 %	55.3	45.3
その他（注5）	3.1	0.1	3.3 %	0.4 %	3.0	3.1
資産管理型信託（注3）	663.0	51.3	8.4 %	76.2 %	611.7	650.5
金銭信託	89.0	△ 1.6	△ 1.8 %	10.2 %	90.6	95.6
年金信託	44.4	1.8	4.2 %	5.1 %	42.6	43.2
投資信託	131.9	11.2	9.3 %	15.2 %	120.7	124.3
金銭信託以外の 金銭の信託	15.5	2.0	14.8 %	1.8 %	13.5	14.8
再信託	304.1	28.7	10.4 %	34.9 %	275.4	293.9
その他（注5）	77.9	9.3	13.6 %	9.0 %	68.6	78.5
資産流動化型信託（注4）	58.4	1.3	2.3 %	6.7 %	57.1	58.3
金銭債権の信託	29.9	△ 1.0	△ 3.2 %	3.4 %	30.9	31.1
不動産の信託	27.6	2.1	8.2 %	3.2 %	25.5	26.4
その他	23.8	0.0	0.0 %	2.7 %	23.8	23.8
合計	870.2	50.9	6.2 %	100.0 %	819.3	852.0

（△印 減）

- （注）1. 本表において公表した計数は、信託協会が作成した複数の統計資料を利用して作成した概数である。
また、機能別分類毎の内訳には、主な信託商品を掲載している。
2. 資産運用型信託とは、受託者（信託銀行等）が自らの裁量により資産を運用する信託をいう。
3. 資産管理型信託とは、受託者が委託者等の指図に基づき資産を管理する信託をいう。
なお、再信託とは、信託銀行等が委託者になったものをいう。
4. 資産流動化型信託とは、資産の流動化を図り、原資産保有者が資金調達を行うための信託をいう。
5. 金銭、有価証券など複数の種類の財産を同時に信託する包括信託。

信託の受託概況(信託財産総額)の推移

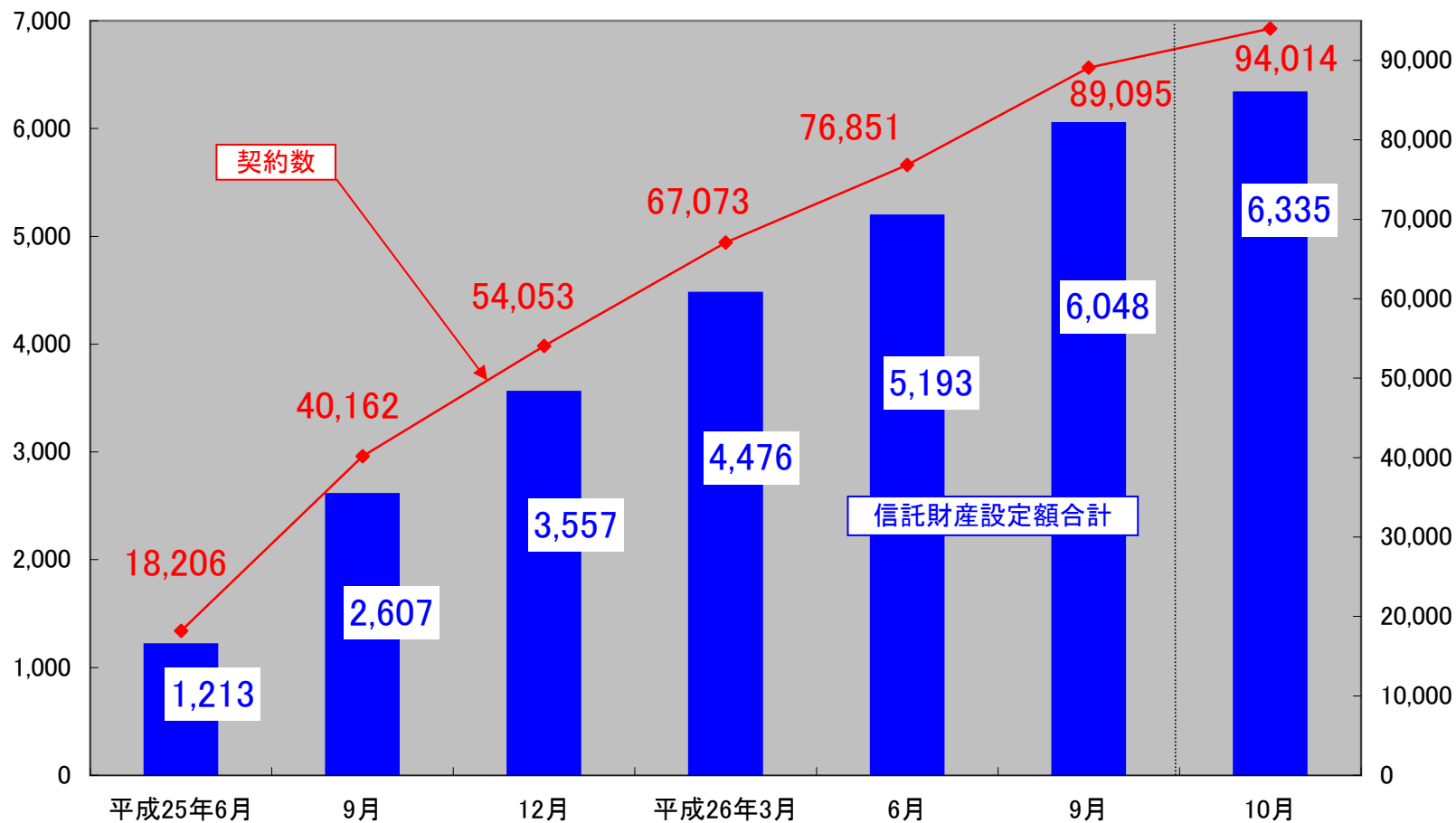


教育資金贈与信託の受託状況

参考2

(信託財産設定額合計: 億円)

(契約数: 件)



四半期中(月中) 契約数: 件	18,206	21,956	13,891	13,020	9,778	12,244	4,919
四半期中(月中) 信託財産設定額: 億円	1,213	1,394	950	919	717	854	287

遺言代用信託について

遺言代用信託とは、委託者が、自分の生存中は自分を受益者とし、死亡後は自分の子・配偶者などを受益者とするといった形で設定する信託です。

例えば、相続が発生したときに、葬儀費用や当面の生活費などの必要な資金を、予め指定された受取人が速やかに受け取ることができるような商品や、長期に亘って、顧客のニーズに合わせた金銭の支払いを行うなどオーダーメイドの財産管理ができる商品があります。

信託の財産管理機能を活かし顧客のニーズに合った制度設計ができる遺言代用信託は、平成 26 年度は上半期中だけで 27,852 件の新規受託があるなど、平成 24 年度以降、急激に件数が増加しております。

<遺言代用信託の新規受託件数の推移>

(件)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度 上半期
新規受託件数	44	64	18,742	46,431	27,852

相続関連業務について

高齢者の資産の蓄積や核家族化の進展により、財産の円滑な承継を行うための有効な手段として、相続関連業務があります。

相続関連業務には、遺言書の保管・執行業務と遺産整理業務があります。

<遺言書の保管・執行業務>

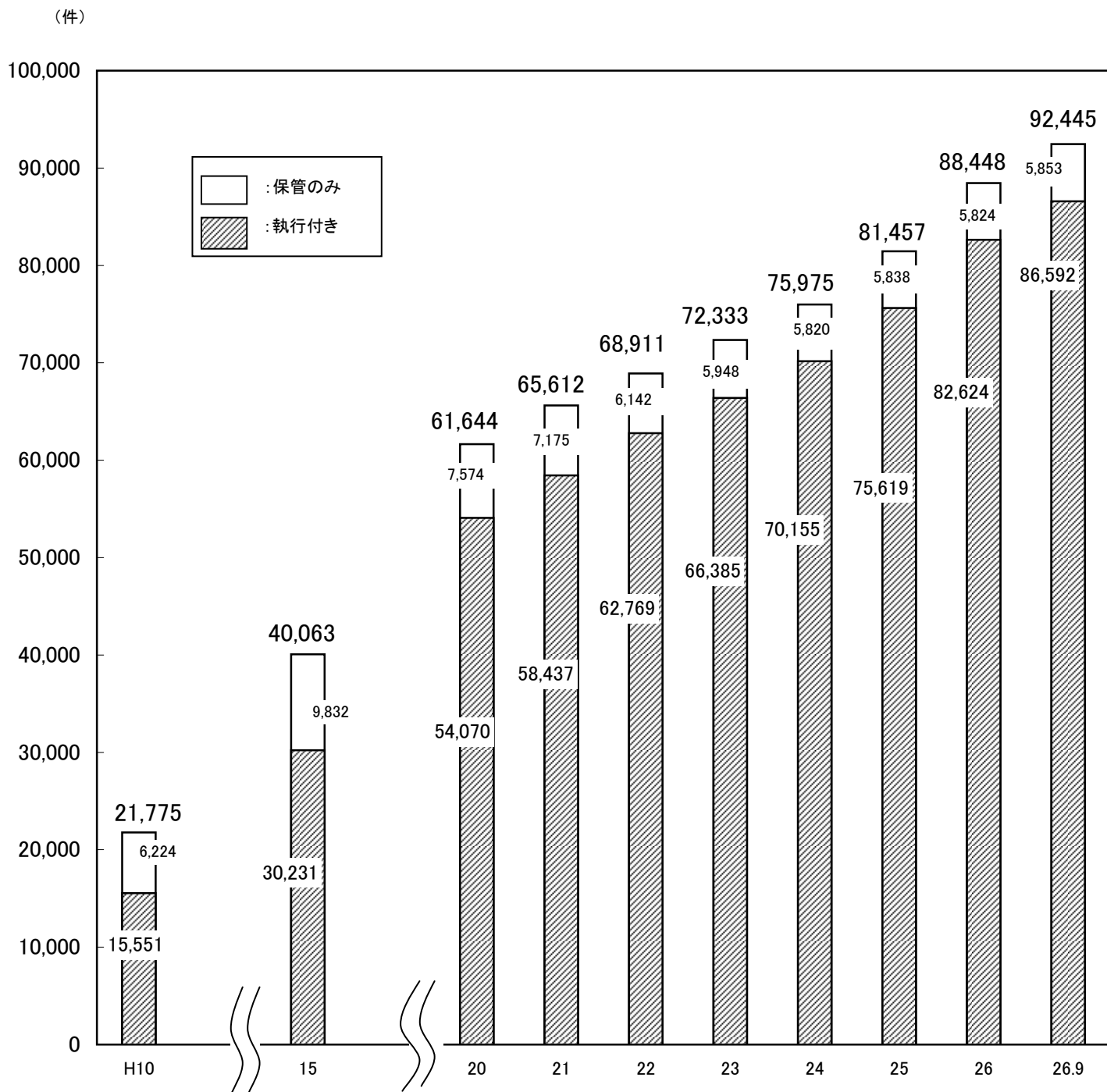
財産に関する状況の調査、遺言書の作成、遺言書の保管の引き受けを行います。相続開始時には、遺言執行者として財産に関する遺言の内容を実現するための任務（不動産の管理、売却処分や預貯金・株式などの名義変更や換価処分）を行います。

その取扱状況は、別紙のとおり増加傾向にありますが、特に近年は、遺言書の保管から執行まで引き受ける形の契約が増えております。

<遺産整理業務>

相続が発生して手続に悩む相続人や遺族からの依頼により、遺産相続手続を代行する業務です。財産目録の作成、遺産分割協議書に基づく遺産分割手続を行います。

遺言書の保管件数の推移



(注) 上記は、各年の3月末現在の件数および平成26年9月末現在の件数。

後見制度支援信託について

<後見制度支援信託とは>

後見制度支援信託は、後見制度を本人の財産管理の面でバックアップするための信託です。この仕組みでは、本人が金銭を信託銀行等に信託し、信託された金銭の中から後見人が管理する預貯金口座に対して、本人の生活費用などの支出に充当するための定期交付や医療目的などの臨時支出に充当するための一時金の交付が行われます。

後見制度支援信託では、信託契約の締結、一時金の交付、信託の変更、解約の手続は、家庭裁判所の指示書に基づいて行われますので、家庭裁判所の関与のもとで、安全に本人の財産を保全することができます。

平成24年2月の取扱開始以降、受託件数、受託残高とも順調に伸びています。

<後見制度支援信託の受託状況>

(件、億円)

	平成 25 年 3 月末	平成 26 年 3 月末	平成 26 年 9 月末
受託件数	174	1,048	2,492
受託残高	59	350	830